Junko's Heart to Heart Concert

Junko's Heart to Heart Concert No.10

Russian Connection
～ロシア音楽に魅せられて～

Program

*S.プロコフィエフ：ヴァイオリン・ソナタ 第2番 ニ長調 作品94bis
S.Prokofiev：Violin Sonata No.2 Dmajor Op.94bis

*P.I.チャイコフスキー：メロディ 作品42の3
P.I.Tchaikowsky：Melody Op.42 No.3

*A.ルビンシタイン ― H.ヴィエニャフスキ：ロマンス 作品44の1
A.Rubinstein－H.Wieniawski：Romance Op.44 No.1

*C.キュイ：オリエンタル・メロディ 作品50の1 ～『万華鏡』より
C.Cui：Orientale Op.50 No.9（from "Kaleidoscope"） ほか

Violin

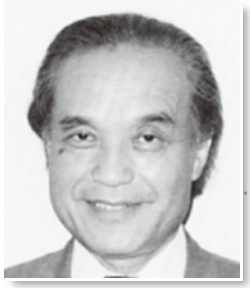
大津 純子（Junko Ohtsu）

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動を開始。ジュリアード音楽院在学中に、ジュネス・ミュージカル・インターナショナルおよびカーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム〈The Artistry of Junko Ohtsu〉のパブリックTVネットワークによる全米３０都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より２年間に亘り特別グラント受賞。国際交流基金派遣にてロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。
『マラゲーニャ』、『アメリカ』（1988年、"レコード芸術"誌「室内楽準推薦盤」に選出）、『Prelude to a Kiss』などCD５枚をリリース。
近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。
2002年、自ら企画・プロデュースする室内楽シリーズ『Good Old Days～アメリカの"素敵な時代"』を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった"知られざるアメリカ"にスポットを当てた意欲的な好企画として、大きな注目を集める。 2004年、イラストレーター・和田誠、ジャズピアニスト・佐藤允彦と共に、ジャンルを超えて音楽を楽しもうという意図のもと、〈Junko and the Night and the Music〉シリーズを開始。３人の異なるバックグラウンドを活かしたユニークな企画は大好評を得ている。2005年より〈Junko's Heart to Heart concert〉シリーズも年２回展開中。

Piano

岡田 知子（Tomoko Okada）

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトに留学。声楽の伴奏と器楽アンサンブルを学び、同校を首席で卒業。1977年1月、ベルリン・メンデルスゾーン・コンクール：ピアノ・トリオ部門第１位入賞。同年10月、ジュネーブ国際音楽コンクール：ピアノ・トリオ部門第２位（１位空席）およびスイス特別賞受賞。現在、アンサンブル・ピアニストとして内外演奏家との共演、ＣＤ録音、コンサート・プロデュースなど、多方面に活発な活動を続けている。



Guest

音楽評論家
濱田 滋郎（Jiro Hamada）

1935年生まれ。60年頃より翻訳、雑誌への寄稿、レコード解説などの仕事につく。78年より2004年まで、東京芸術大学、桐朋学園大学、東京外国語大学、立教大学、東京大学ほかで非常勤講師を務める。NHKFM放送のクラシックおよび民族音楽の番組にレギュラー出演、89年には教育テレビ「市民大学」講師を半年間務める。88、90の両年、キューバの「ハバナ国際ギター・コンクール＆フェスティバル」に審査員、講演者として招かれる。
主要著書に「スペイン音楽のたのしみ」（音楽之友社）、「フラメンコの歴史」（晶文社）、「エル・フォルクローレ」（晶文社）のほか、訳書多数。現在、日本フラメンコ協会会長（90年より）、スペイン音楽こだまの会主宰（85年より）。「レコード芸術」誌新譜月評〈器楽部門〉レギュラー執筆者。第3回「蘆原英了賞」受賞。

主 催／大津純子室内楽実行委員会　協 賛／株式会社 アクセル　協 力／NPOえこお、株式会社 アルファマインド

〈会 場〉

HILLSIDE PLAZA

●渋谷より東急東横線で各駅停車にて一駅：「代官山駅」より徒歩3分
●東急バス 渋71（渋谷駅発～洗足駅行）「代官山駅入口」より徒歩2分
●バス／東急トランセ（渋谷駅発）「ヒルサイドテラス」下車